

## 総 評

本年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、本センターでも春先から試験・調査及び研究活動に大きな制限が出た。その中であって、まず PCR 検査システムを緊急に確立し、本県の感染者判定の体制を早期に整備したことは賞賛に値する。

予定していたにもかかわらず実施できなかった研究課題があったことは残念であるが、昨年度末までに終了した事後評価対象課題は、十分な成果が得られたと評価できる。

事前評価対象 2 題はいずれも意義のある課題である。引き続き新型コロナウイルスによる制約が続くことが予想されるが、評価意見を十分に考慮して大きな成果が得られることを期待する。

早川 和一